第４章 基本方針

これまで整理してきた藤沢市における生物多様性に関する現状と課題や取組などを踏まえ、本戦略の将来像と基本方針を以下のとおり定めました。

１．将来像（目標）

生きものの恵みを感じるまち藤沢

藤沢市民の暮らしは、かつて、多様な生きものが生きる自然と今よりはるかに密接でした。農業を生業（なりわい）とした日々の暮らしは、身近な自然から恵みを得て、自然と密接につながっていなければ成り立ちませんでした。

しかし、かつて密接で身近であった自然とのつながりは、都市化が進む中で物心両面から遠ざかり、自然からの恵みも恐れも日常的に感じることが難しくなっています。

今日では、経済の発展やグローバル化に伴い、自然からの恵みは国内外の遠方からも手に入るようになり、また、インフラ整備などの進展により自然災害からの安全も確保できるようになってきました。

遠い外国から輸入されるものが手に届くまでの過程（サプライチェーン）は見えづらいものですが、日々の暮らしが遠い国の「自然の恵み（生物多様性を基盤とする生態系サービス）」に依存していることは、今でも私たちと自然とのつながりが決して途切れていないことを示していると言えるでしょう。

自然の恵み（生物多様性を基盤とする生態系サービス）や恐れを日常的に感じることが難しくなっていますが、私たちと自然とのつながりは途切れていないことから、市内外の多様な生きものが生存する自然、生物多様性の意味や重要性を、今一度、感じられる藤沢市とするために、本戦略の将来像を「生きものの恵みを感じるまち藤沢」と定めました。

この将来像の実現に向け、小さくてもできることから取り組むことによって、生物多様性の保全と持続可能な利用の実現を目指します。

２．基本方針

Ⅰ．生物多様性を守り、創ります。

藤沢市では、これまでも「藤沢市緑の基本計画」などに基づき、生物多様性の保全の取組を進めてきましたが、経済と社会が持続可能であるためには、生物圏が有する自然資本がその必要条件であるといった SDGs（持続可能な開発目標）の考えを踏まえ、藤沢市の生物多様性の保全・創出につながるこれまでの取組を継続するとともに「第２の影響（自然に対する働きかけの縮小による影響）、第３の影響（人間により持ち込まれたものによる影響）」への対策を強化します。

Ⅱ．暮らしや活動のなかで生物多様性に取り組みます。

生物多様性に関する根本的な課題として、認知度が低いことや生物多様性に関する周知活動が不十分であることが挙げられます。そのため、生物多様性について自分のこととして考えにくく、積極的な行動へとつながっていない現状があります。今後は、私たちの暮らしが生物多様性の恵み（生態系サービス）によって成り立っていることへの理解を醸成し、ライフスタイルの改善を促すことで、生物多様性の保全と持続可能な利用の実現を図ります。

Ⅲ．産業経済活動のなかで生物多様性に取り組みます。

藤沢市の代表的な産業である「商工業（観光）」「農業・水産業」においては、これまで、環境に対して、市の既存計画や企業のCSR（企業の社会的責任）*活動あるいは事業活動として、それぞれ取り組んできましたが、生物多様性については十分浸透しておらず、さらなる事業活動における配慮が求められている状況です。今後は、各産業の状況に対応した施策や取組により、生物多様性に関する理解の醸成と浸透を図り、事業活動における生物多様性への配慮を促します。

Ⅳ．生物多様性と子どもたちの関わりを増やします。

藤沢市では、以前から子どもを対象とした自然科学教育への取組が盛んに行われています。また、藤沢市の自然環境は子どもたちを通して将来に受け継がれていくものでもあります。そこで本戦略では、子どもたちをターゲットにあらゆる角度から生物多様性への理解を深めることを進めます。特に「啓発」活動の対象を「子ども」たちとし、自然に親しみ、生物多様性の大切さを理解してもらえるような施策を、家庭・地域・学校とともに展開していきます。